

組織現勢 (10月1日現在)

組合員数	19,354人
出資口数	89,387口
9月の新規加入	21人
9月の増資口数	349口

No. 365 再生紙を使用しています。



発行所
城南保健生活協同組合
 本部事務局 大田区大森東4-6-15-101
 TEL (3762) 0266
 振込銀行 さわか信用金庫大森支店
 口座(普) 0469459
 発行 「城南の保健」編集委員会
 毎月1回発行・定価1部 30円



どの演題もすばらしかったです

仲間増やし月間成功へ向け 組合員と職員の活動交流会開催

9月28日(土) 5回目となる「城南3法人生協組合員活動と医療・介護活動交流会」を開催しました。今年の会場は品川の中企業センターで11演題の発表がありました。

「組合員さんの発表はアットホームでよかった」「城南3法人にとつてすばらしい展望につながる」と感じました。皆さんが日々

ネットでの情報交換を活用して

ヘルパーステーションすずらん 榎田政代

在宅での

医療介護の連携

往診医からの提案で、パソコンを使って医師・訪問看護師・薬剤師・心療心理士・ケアマネジャー・ご家族・訪問介護での情報交換をすることになりました。医師やご家族と情報交換といわれても、どのように書けばよいのか。さまざま不安と緊張が入り交じっていました。

いざ始めてみる

医師から、入院中のさまざまな情報(病状や薬剤、レントゲンやCT画像)がメールで届きました。また、往診時の様子やご家族の思い、医師の対応や考えなどもそのまま届きました。報告に当たって、はじめは細かく書いていましたが、医師から「大きな変化がなければ

2013年度月間目標

仲間ふやし	630人 (年間目標の90%)
大腸がん検査	450人
コムコム購読	10部
いつでも元気購読	30部

「活動交流会」発表演題

「生協西品川支部と三ツ木グループの年間活動について」

演者 三ツ木診療所 長沢伸彦

「高校生にこそ、看護を語り、民医連を語る」

演者 大田病院看護学生室 田中典子

「東京南部生協と城南保健生協の連携と
東京南部生協がはじめる高齢者見守り活動について」

演者 東京南部生協 森崎良光・棚橋直樹

「ネット情報交換を活用して」

演者 ヘルパーステーションすずらん 榎田政代
共同研究者 石倉かおる・倉茂信吾 ほか

「地域に安心して住み続けられるために
～池上での日曜サロンの取り組み～」

演者 野本隆子 (生協中央池上支部)
共同研究者 池上の高齢者介護を考える会

「知ってほしい訪問看護の魅力」

演者 西品川訪問看護ステーション 今井かなえ
共同研究者 田尻久美子・大森由美子

「三ツ木診療所歯科の往診について」

演者 三ツ木診療所歯科 山地愉木
共同研究者 三ツ木診療所歯科職員

「ゆたかの家の今までとこれから」

演者 宿利周子・古口昭代 (生協豊支部)

「ゆたか診療所通所リハビリテーション移転へ向けての取り組み」

演者 ゆたか診療所 福田僚太郎

「大森薬局の紹介」

演者 大森薬局 小林 寛

「2012年度 仲間増やし月間の取り組み」

演者 星野弘子 (生協理事)

他職種との連携

薬の変更や種類、ご家族の薬に対する不安への対応や医師と薬剤師のさまざまなやりとりが手に取るようにわかりました。また、訪問看護などからも訪問時の状況や血圧、体温などの動きやケア内容などが、遅くとも訪問の翌日まではメールで届きました。こうした情報を確認してから訪問できたことは、ご本人やご家族への配慮やケアをするうえでとても役立ちました。

終末期 いよいよその時が...

医師から往診の結果、非常に厳しい状況となっていることが伝えられました。そこで訪問介護員の人数を増やし、ケアでの負担の軽減、ご家族と一緒にケアを行えるよう意思統一し訪問しました。ご家族と訪問介護員が楽しかったことなどを、ご本人に話しかけながら行いました。ケアがちょうど終わったとき、静かに旅立たれました。ご家族が「いい顔しているね」と言われていたのが、何よりの言葉でした。ご家族も訪問介護員も、最後の時が来るかもしれない、できるだけ悔いが残らないようにと考えていたので、ご家族と一緒に時間を過ごせたことに少しだけ安堵しています。

今回のネットでの情報交換という新たな試みに参加して、医師からの現病状やご家族とのやりとりなどがよくわかり本当に安心してケアに臨めました。医師を中心に他職種が一丸となって利用者さんとご家族に向かい合えた思いがあり、とても良い体験ができたと感じています。



発表するすずらん榎田所長

腹八分

東京でのオリンピックの開催が決定し、マスコミはこぞって歓迎ムードをおおります。しかし一般には、うれしさは中ぐらいかなという印象です。ほぼ半世紀前の東京大会のときは、もう少し国民の中にワクワク感がありました。敗戦国として負の遺産を引きずり続けてきた日本が、これで世界の仲間入りができた。そんな思いが国民の中にありました▼半世紀前のオリンピック競技の印象を強烈に記憶に焼き付けている人はまだたくさんいます。女子バレー、マラソンのアベベと円谷、黒人選手や新興国の選手が台頭。そして柔道無差別級で日本人選手が外国人選手に敗れたこと。世界の広さを改めて感じた大会でした▼あのオリンピックの後、日本は急速に変貌を遂げました。まっしぐらに経済大国への道を歩み、右肩上がりで敗戦国から一等国へ、をめざしました。その「成長」の陰でさまざまなものが失われていきました。成長は巨大な環境破壊をともないました。高度経済成長政策は、その担い手を農村の青年に求め、それが農業の衰退を招き、食料自給率の低下につながりました。城南の地域だって江戸時代から続いてきた海苔の養殖が終焉を迎えました▼オリンピックは純粋で楽しくあらなければならぬ。こんな原点を見つめる東京オリンピックを国民は求めています。オリンピックに名を借りたムダな開発。まして東京にカジノ構想など愚の至りです。福島原発事故による放射能は安全、こんなベテスが7年後まで有効であるはずもない。